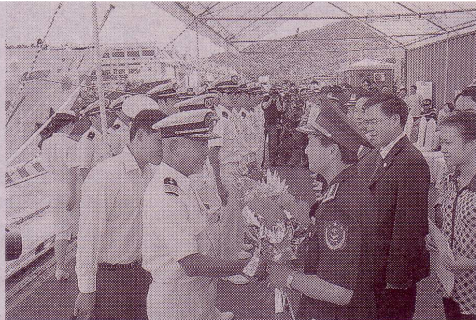


# 求む 日本製巡視船

## 東南アジアで導入拡大

ベトナムが最近、日本の巡視船の導入を考えた。東南アジアではインドネシア、フィリピンに次ぐ動き。海上保安分野で日本の支援を求める主な国は8カ国に上る。日本の優れた技術や装備への各国の評価と、中国を牽制したい日本政府、それに政府の途上国援助（ODA）予算に注目した造船業界の思惑が一致した。



ベトナム中部ダナン港に寄港し、ベトナム海上警察に歓迎される海上保安大練習船「こじま」  
乗組員＝7月30日、在ベトナム日本大使館提供

## 中国の海洋進出、背景に

ベトナム政府関係者によると、日本の巡視船導入を考えているのは漁船の安全を管轄する農業農村開発省水産局。今年1月、南シナ海での漁船保護と領海保全を念頭に、海上での「取り締まり部隊」を新設。監視や追跡の装備を十分備えた船舶が足りないという。7月に調査団を日本に送り、ODAの利用などによる支援の要請を検討している。

一方、両政府関係者によると、ベトナムの海上警察への巡視船供与も模索している。7月末、海上保安大の練習船「こじま」がベトナム中部ダナン港に寄港。海上警察のリー・ゴック・ミン大佐は歓迎式典で「海保には豊富な経験がある。協力は今後も進めたい」と日本への期待を寄せる。

日本には、ベトナム以外にも海上保安分野での協力の依頼が殺到している。主な地域は東南アジアだ。海上保安庁は元々、タン

日本が海上保安分野に力を入れる国

● 協力を実施 ■ 協力打診など



カーの通り道であるマラッカ海峡の海賊対策などに注目。フィリピン、マレーシア、インドネシアに、救難のための設備や人材育成など

を支援。2007年には27級の新造巡視船3隻をインドネシアに引き渡した。これを加速させたのが、中国の南シナ海への急速な進出だ。パラセル（西沙）諸島周辺では、3月に中国船による発砲事件が起きるなど、ベトナム漁船が被害を訴える事件が再三発生。昨年は、スカボロー礁（中国名・黄岩島）の領有権をめぐり、中国監視船とフィリピン巡視船がにらみ合う事件もあった。

## 技術に評価 ■ 苦境の造船界歓迎

なぜ、各国は日本の支援を歓迎するのか。国際協力機構（JICA）によれば、現代は戦争が相次いだ20世紀から様変わりし、テロや海賊対策が重要な課題に浮上。海上資源の開発に乗り出す発展途上国も相次ぎ、沿岸警備隊の需要が高まっている。

日本の装備や技術は優秀だ。インドネシアに引き渡された3隻は、日本と「限定して使う」と約束したマ

ラッカ海峡での海賊やテロ対策のほか、密輸などの海上犯罪対策でも「活躍」。

これに対し、安倍政権は対中国を念頭にした海上安全保障分野での関係国との連携に動く。ベトナムへの巡視船支援も「首相の強い関心事項」（政府関係者）という。7月にはフィリピンに新造の40級巡視船10隻の支援で合意した。今年3月、スリランカと海洋分野での協力推進で合意した背景にも中国があるという。中国は最近、インドを取り囲むように、パングラデシュやパキスタンで

の港湾施設建設を支援しているからだ。日本は5月、東アフリカのジブチでも、沿岸警備隊を育てる支援を始めた。日本がソマリア海賊対策で自衛隊をジブチに派遣する際、海賊への法執行手続きの必要性から、海上保安官を派遣したことが縁になった。別の政府関係者によれば、この問題で中国の艦艇派遣を知った麻生太郎首相（当時）が、派遣を渋る防衛省を説き伏せたという。

よれば、尖閣諸島を巡る問題で予算や人員が不足気味。海保はジブチへの協力を引き受ける際、他のアフリカ諸国への協力はジブチを拠点とし、予算や人員の節約に協力を求めた。アフリカでは、ケニアとタンザニアも日本に海上保安分野での協力を打診している。海保は9月、職員ら3人をジブチに派遣して逮捕術などを指導するが、そこにケニア海上警察関係者も招く。（佐々木学「ハノイ、機動特派員・牧野愛博」）

2013年8月19日  
朝日新聞